

## フォースタス博士の悲劇（２）

クリストファー・マーロー 作

熊崎久子 訳

### 第三幕，プロローグ

#### コーラス登場

コーラス            碩学の士フォースタスは、  
ヨブの天空の書に刻まれた  
天文学の秘密の数々を見出そうと、  
オリンパスの頂きを目指し翔け昇りました。  
そこで彼は首に軛をかけたドラゴンの強大な力に引かれた            5  
煌々と燃え立つ戦車に乗って、  
雲を、惑星を、恒星、  
赤道帯、その他大空の隅々までを、  
三日月の輝く弦から  
最高天の頂きに至るまで観極めたのです。            10  
それから宇宙の極の凹面の領域の中を、  
弧を描いて旋回しながら、  
東から西へとドラゴンの群れは速やかに走り  
八日の内にフォースタスを故郷へと連れ帰りました。  
静かな我が家に長く留まることもなく            15  
辛く苦しい旅路の後の骨休めをする暇もなく、  
新しい探求が再び彼を駆り立て、  
その翼でえもいわれぬ大気を引き裂いて駆ける、  
ドラゴンの背にまたがって、  
今や彼はこの地上の数々の海岸線や王国を記した、            20  
宇宙学の真偽を確かめるべく出立したのです、



- 前に命じた通り、  
私をローマの壁の中に案内してくれているのだろうか？
- メフィストフィレス            その通りだ、フォースタス、その証拠に            25  
見るがいい、ここは法王の豪華な宮殿だ。  
我々は唯の客ではないのだから、  
法王の部屋を自由に使わせて貰おうじゃないか。
- フォースタス            法王が我々を歓迎してくれるといいが。
- メフィストフィレス            同じことさ、法王の鹿肉料理は我々が頂く  
わけだから。            30
- だが、フォースタス、お前の目を楽ませるどんなものが  
このローマにあるかを知ってもらうために言うのだが、  
この都は、土台を支えている  
七つの丘の上に乗っているということ。  
その中央を豊かな水を湛えたタイバー川が流れ、            35  
曲がりくねった両岸がこの町を二つに分けている、  
川には堂々とした橋が四つ架けられ、  
それによって両岸の行き来が安全になっているのだ。  
ポンテ・アンジェロと呼ばれる橋の上には  
比ぶものなき堅固な城が築かれてい、            40  
そこでは多数の大砲を目の当たりにするだろうが、  
丸一年の日数にも匹敵する程の数の  
真鍮で鑄造された  
二連砲も見られるだろう。  
その他、ジュリアス・シーザーがアフリカから持って来た            45  
門や高いピラミッドもある。
- フォースタス            では、悪魔が支配し、  
スティクス、アケロン、そして永劫の業火を燃やし続けている  
ブレゲトンに賭けて、是非見たい  
数々の記念碑、            50  
燦然と輝くローマのたたずまいを。  
さあ、出掛けよう。
- メフィストフィレス            いや、待て、フォースタス。お前が法王に会い  
また聖ペテロの祭りに参加したいのは分かっている、

この祭りは、法王の輝かし勝利を祝して、55  
 今日、ローマはもとより全イタリアにおいて  
 盛大に、厳かに執り行われるのだから。

フォースタス           メフィストフィレス、君は私を楽しませてくれている。  
 私がこの地上に在る限り、人間の心を楽しませる  
 喜びという喜びをもって私を飽きる程楽しませてくれ。60  
 自由に過ごせるこの24年間という月日を  
 私は快樂と放縦に費やし、  
 フォースタスの名が、この世界というフレイムが有る限り  
 最果ての地に至るまで称賛されるようにしたいのだ。

メフィストフィレス           よく言った、フォースタス、さあ、  
俺のそばに立って 65

奴らが直ぐにやって来るのを見るがよい。

フォースタス           いや、待ってくれ、メフィストフィレス、  
 私の願いを聞いてくれ、それから出掛けるとしよう。  
 お前も知っている通り、この八日の間に  
 我々は天と地、そして地獄の面を見て来た。70  
 我々のドラゴンは大空高く翔け、  
 見下ろせば、この地球は私の目には  
 手の平程の大きさにしか見えなかった。  
 そこから地上の数々の王国を見、  
 私の目を楽しませるものはすべて見て来た。75  
 そこで、今度の見世物では私を主役にしてくれ、  
 傲慢な法王にフォースタスの魔術を見せてやりたいのだ。

メフィストフィレス           そうすればいい、フォースタス、だが、初めは  
 ここにいて、奴らが意気揚々と通り過ぎるのを見ていよう、  
 その後で、お前の魔術を駆使して80  
 法王の邪魔をし  
 勿体ぶった儀式を滅茶滅茶にしようと気の向くままにすればいい、  
 修道士や修道院長を猿のような姿で立たせ  
 法王の三重の宝冠を道化師みたいに指ささせたり、  
 托鉢僧の頭を数珠で叩かせるもよし、85  
 また枢機卿の頭に角を付けてやるのもいいだろうし、

その他どんな悪戯でも思い付くままにやってみるがいい、  
俺がその通りに出来るようにしてやるからな、フォースタス。  
そら、奴らがやってくる。  
今日という日がお前をローマーの寵児にしてくれるだろう。

枢機卿、司教たち登場、或る者は笏杖を、或る者は柱杖を持って。  
修道士、托鉢僧は行列聖歌を唱えつつ登場。  
その後、法王、ハンガリー王レイモンド、鎖に繋がれたブルーノー  
登場。

法王 余の踏み台を置け。  
レイモンド サクソニー人ブルーノー、身を屈めるがよい。90  
法王様がお前の背中を踏み台にして  
聖ペテロの椅子に登られ、法王座に着かれるから。  
ブルーノー 傲慢なルシファーめ、その座は本来私のものなのだ、  
身を屈めるが、聖ペテロに対してであって、お前にはないぞ。  
法王 お前は余と聖ペテロに対して平伏するのだ 95  
法王の權威にひれ伏すのだ。  
トランペットを吹きならせ、聖ペテロの後継者たる余が  
かくの如くブルーノーを踏み台にして聖ペテロの椅子に登るのだ。

[法王が席に着く間、トランペット吹奏]

神々はこのようにして羊毛の御足をもって歩かれ  
やがて鉄の御手をもって人間を罰し給う、 100  
同様に余の復讐心も眠りから目覚め  
お前の憎むべき企みを死をもって打ち砕くのだ。  
フランスとパデュアの枢機卿、  
直ちに宗教法院に赴き、  
教会の法令を読み、 105  
トレントで開かれた神聖な宗教会議において  
選挙によらず、真の合意にもよらずに  
法王庁政府を僭称する者に対して

宗教法院がいかなる判決を下したかを調べて貰いたい。

直ちに行き、急ぎその結果を報告せよ。

110

第一の枢機卿 直ちに参ります、法王様。

[枢機卿たち退場]

法王 レイモンド卿。 [二人、離れて話をする]

フォースタス さあ、メフィストフィレス、急いで、

あの二人の枢機卿の後を追って宗教法院に行って、

彼らが迷信だらけの書物をめくっている間に、

115

けだるい眠気に襲わせてやれ。

深い眠りに陥ったら、我々が二人の姿になって

法王と直接談判しようって訳だ。

この法王ときたら皇帝に楯を突くような傲慢な奴だからな、

勿体ぶった奴の鼻をあかして

120

ブルーノーを自由にしてやり

ドイツへ連れ帰るようにしてくれ。

メフィストフィレス そうしよう、フォースタス。

フォースタス 素早くやってくれ。

法王の奴にフォースタスがローマに来たことを悔やませてやるぞ。

125

[フォースタスとメフィストフィレス退場]

ブルーノー エイドリアン法王、法に基づく権利を私に与えてくれ。

私は皇帝によって選出されたのだ。

法王 そのような行為故に余は皇帝を退位させ

その皇帝に従う国民を罵り苦しめるのだ。

皇帝もお前も破門にし

130

教会の特権も

聖職者との交わりもすべて禁ずる。

皇帝は己の権限に溺れ過ぎ、

雲の上までその奢り高ぶった頭をもたげ、

尖塔さながらに教会を見下ろしている。

135

だが、その傲慢不遜な皇帝を余が引きずり降ろしてやる。  
 かつての法王アレキサンダーが、  
 ドイツ皇帝フレデリックの首筋を踏み付け、  
 更に感じいったことには、かく黄金の言葉を付け加えられたのだ、  
 「聖ペテロの後継者は、皇帝を足げにし 140  
 恐ろしい毒蛇の背を踏み歩き、  
 ライオンとドラゴンを踏み付け、  
 一睨みで人間を殺すバシリスクをも恐れることなく蹴散らす」と。  
 それ故、余もあの高慢な教会分立主義者を抑え、  
 使徒なる法王の権威によって 145  
 皇帝を統治者の座から放逐する。

ブルーノー 法王ユリアヌスは皇帝シギスマンドに、  
 自分のもとより以後の歴代のローマ法王は  
 皇帝を正統な君主と仰ぐと誓ったではないか。

法王 ユリアヌス法王は教会の慣習を乱用したのだ、 150  
 それ故彼の発した法令はすべて無効なのだ。  
 この地上における一切の権力は余に与えられているのではないか？

従って余は過ちを犯したくも犯し得ないのだ。  
 見よ、この銀のベルトを、これには 155  
 七個の鍵が七つの封印によって結ばれている、  
 余が神より与えられている七つの権力の印だ、  
 縛ろうと解き放そうと、禁固刑にするも、死刑に処するも、

その他の判決を下すも、  
 封印をするも、解くも、その他何であれ余の思いのままだ。  
 故に皇帝やお前は言うに及ばずこの世のすべての者が余の前に  
 ひれ伏さねばならぬ。

さもなければ、余の恐るべき呪詛が 160  
 地獄の苦しみのように重くお前たちの頭上に降りかかるものと思え。

フォースタスとメフィストフィレス、枢機卿の姿で登場

メフィストフィレス どうだ、フォースタス、良く似合うじゃないか？  
 フォースタス 全くだ、メフィストフィレス、これ程の枢機卿が

こんなやり方で神聖な法王様に仕えるなんてことはあるまい。

奴らが宗教法院で眠っている間に

165

法王閣下にご挨拶をしておこう。

レイモンド　　ご覧下さい、法王様、枢機卿が戻って参りました。

法王　　ご苦労だった、枢機卿、早速返事を聞かせてくれ。

余の地位と法王権に反逆を企てた

この度の陰謀に関し

170

ブルーノーと皇帝に対し、

どのような法令を下したのか？

フォースタス　　ローマ教会の最も神聖なる守護者であられる

法王閣下に申し上げます。

すべての司祭、司教からなる宗教会議は満場一致をもって

以下の通りに決定しました。

175

ブルーノーとドイツ皇帝は

ロラードであり、畏れを知らぬ教会分立主義者であり

教会の平和を脅かす傲慢な破壊者である。

もしも、ブルーノーがドイツ諸侯の強制によってではなく、

自らの意志によって、

180

三重の宝冠を頭上に戴き

法王閣下の死をまって、聖ペテロの座に登ろうとするのであれば、

教会法令はかく述べています。

そのような者は直ちに異端の宣告をされ

積み上げた薪の上にて火刑に処すべし、と。

185

法王　　それで充分だ。この者の身柄を諸卿に委ねる、

直ちにポンテ・アンジェロに連行し、

最も強固な塔に嚴重に閉じ込めておくように。

明日、法院に出向き

枢機卿全員陪席のもとで、

190

この者の生死を決定する。

この者の三重の宝冠を携え、

教会の宝庫に納めておくように。

もう一度急いでくれ、諸卿たち、

使徒たる余の祝福を受けてくれ。

195

メフィストフィレス いやいや、悪魔がこんな祝福を受けるとは、  
前代未聞のことだ。

フォースタス さあ、メフィストフィレス、行こう。  
あの枢機卿たちはいまにひどい目にあうぞ。

[フォースタスとメフィストフィレス、ブルーノーを連れて退場]

法王 直ちに晩餐の準備をせよ、  
聖ペテロの祭りを余が厳かに執り行えるように、 200  
ハンガリー王レイモンド卿と共に  
我らの最近の幸運な勝利を祝して杯を上げるとしよう。

[退場]

第三幕, 第二場

トランペットの吹奏、晩餐の準備が進められている。  
フォースタスとメフィストフィレス、本来の姿で登場

メフィストフィレス さあ、フォースタス、これから大いに  
楽しんでくれ。

居眠りをしていた枢機卿たちが、ブルーノーに宣告を下そうと  
間もなくここへやって来る、そのご本人は早々に行ってしまったのに。  
速さを誇る駿馬の背にまたがり、あっという間もなく、  
アルプスを一跳びし豊饒の国ドイツに到着し、 5  
悲しみにくっていた皇帝にご挨拶申し上げているだろう。

フォースタス 法王はあの二人の怠慢に怒り心頭だろう、  
居眠りしていてブルーノーも宝冠も失ってしまったのだから。  
さて今度は、このフォースタスのお楽しみだ  
奴らの間抜け振りをからかってやろうじゃないか、 10  
メフィストフィレス、ここで私に魔法をかけて  
私が見えぬ目に見えずに歩き回り、  
見えないままでしたい放題のことが出来るようにしてくれ給え。



それによれば、ブルーノーと憎むべき皇帝は 40  
 神聖な宗教法院にて、忌まわしいロラード、  
 下劣なる教会分立派として処罰されることになったのだ。  
 何故お前たちは余にその書物を見よというのだ？

第一の枢機卿 何かお間違いになっておられます、法王様。  
 レイモンド 間違いのないことだ。ブルーノーが先程 45  
 諸卿らに引き渡され、  
 また三重の宝冠も教会の宝庫に納めるべく  
 君たちに渡されたのも我々は見っていましたぞ。

二人の枢機卿 聖パウロに誓って、私たちはそのどちらも  
 見ておりません。

法王 聖ペテロにかけて言うが、ブルーノーと宝冠を直ちに持参せよ、 50  
 さもなければ、二人とも死刑だ。  
 この二人を牢に入れ、手足に枷をはめておけ。  
 偽りものの聖職者め、この憎むべき裏切りにより  
 お前たちの魂は地獄の苦しみを味わうのだ。

[二人の枢機卿、従者らに引き立てられ退場]

フォースタス そういうことで二人の身は安全だ。さあ、フォースタス、  
 それでは祝宴だ。 55

法王がこれ程浮かれた客に会ったことはないだろう。

法王 リームズの大司教殿、余と同席されるがよい。

大司教 ありがたく存じます、法王様。

フォースタス さあ、食え、さっさと食わなければ悪魔がお前の首を  
 絞めるぞ。

法王 今日をきいたのは誰だ？ 修道士たち、辺りを調べて見よ。 60  
 修道士 恐れながら、誰もいませんが。

法王 レイモンド卿、召し上がって下さい。召し上がって下さい。  
 この珍味はミラノの司教が贈ってくれたものです。

フォースタス 御馳走様。 [皿をひったくる]

法王 どうしたのだ？ 余の肉をひったくったのは誰だ？ 65  
 無礼な奴め、何故黙っているのだ？





ような凄<sup>まじな</sup>い呪いをかけてやるから、そのカップを見せてみな。

### 葡萄酒屋登場

ディック            これだよ。奴が来たぞ。さあ、ロビン、一世一代の術を見せ  
てくれ。

葡萄酒屋           やあ、ここにいたのか？ やっと見付けたぞ。お前たちは  
とんでもない奴らだ。俺の店から盗んでいったカップはどこにある 10  
んだ？ 言ってもらおうじゃないか。

ロビン            何だって？ 俺たちがカップを盗んだだと？ 言葉に気を付け  
ろよ。言わしてもらうけど、俺たちが泥棒なんかに見える訳がねえ。

葡萄酒屋           しらを切っても無駄だ、お前たちが持っているのは分かって  
いるんだ、調べてやる。

ロビン            俺たちを調べるだって？ いいとも、隅から隅まで調べてもら 15  
おうじゃないか。カップを持っててくれ、ディック。[ディックに傍白]  
さあ、さあ、調べてくれ、調べてくれ。

[葡萄酒屋、ロビンを調べる]

葡萄酒屋           [ディックに] さあ、今度はお前の番だ。

ディック           はい、はい、どうぞ、どうぞ。カップを頼むよ、ロビン。  
[ロビンへ傍白]

お前なんかには調べられたってへっちゃらだ。お前んとこのカップ  
みたいなくだらねえ物なんか俺たちは盗まねえよ。

[葡萄酒屋、ディックを調べる]

葡萄酒屋           俺に向かって偉そうな顔をするな、カップは間違いなくお前 20  
たちのどっちかが持っているんだ。

ロビン            いいや、嘘を言っているのはそっちじゃないか。カップは俺  
たちの手の届かない所にあるんだ。

葡萄酒屋           畜生め！ カップを盗むなんてことはお前たちのような碌で  
なしの仕業に決まってるんだ。さあ、返してくれ。

ロビン            たっぷり返してやろうじゃないか。いつ盗んだっていうんだ？ 25  
ディック、俺の回りに円を書いてくれ、俺の背中にしっかりくっ  
ついて立つんだ。絶対に動くなよ。葡萄酒屋、カップは直ぐに返し  
てやるぜ。口をきくんじゃないぞ、ディック、オー ペル セ、オー

デモゴルゴン、ペルチャー、メフィストフィレス。

メフィストフィレス登場

[葡萄酒屋、怖れて退場]

- メフィストフィレス          その祭壇には多くの魂が横たえられ、  
冥府の王たちをも恐れさせ、30  
地獄に君臨する方よ、  
何故私がこの碌でなしどもの呪文に煩わせられるのですか！  
この悪党共のお楽しみのために、  
私はコンスタンチノーブルから呼び戻されたのですよ。
- ロビン                  マリア様にかけて、とんだ旅をなさいましたね。35  
夕食には羊の肩肉を振る舞い、財布には1テスターを入れて差し  
上げますから、お帰りになって頂けませんか？
- ディック                  そうなんです、心からお願いしますよ、我々はほんの冗談  
でお呼びしただけなんですから、全くのところ。
- メフィストフィレス          軽々しく術をかけた罰として、40  
先ずお前たちを醜い姿に変えてやる。  
猿真似をした者は猿になれ。
- ロビン                  おお、いいねえ、猿ですかい！ それじゃあ、俺にはこいつを  
連れて歩いて見世物をやらせて下さいよ。
- メフィストフィレス          そうさせてやる。お前は犬になり、45  
その男を背中に乗せて行け。さあ、行ってしまえ！
- ロビン                  犬だって？ そいつは妻え。女中どもには粥鍋に  
用心してもらわにゃ、早速俺さまが台所伺いに出向くからな。  
おい、ディック、出掛けようぜ。

[二人の道化、ロビンとディック、退場]

- メフィストフィレス          永遠に燃えさかる業火に囲まれて、  
俺は天翔け、直ちに50  
フォースタスの許へ、壮麗なトルコの宮殿へ戻ろう。

[退場]

## 第四幕, プロローグ

## コーラス登場

コーラス           フォースタスは様々な珍奇なもの、  
 王侯の宮殿の数々を楽しく見て回った後、  
 旅程を中断し、故郷へ帰って来ました。  
 彼の不在を悲しんでいた人々は—  
 つまり、彼の友人や親しい知人たちですが— 5  
 彼の無事なる帰国を心のこもった言葉で祝し、  
 世界を駆け巡り、宇宙を翔け抜けた際に  
 遭遇したことに話題が及ぶと、  
 人々は天文学に関していろいろ尋ね、  
 フォースタスは豊かな学識をもって答え、 10  
 人々は彼の博識に驚嘆し、称賛を惜しみませんでした。  
 今や、彼の名声はあらゆる国々に広がり、  
 多くの称賛者の中でも、ドイツ皇帝はその一人でありました—  
 カロルス五世であります—ただ今、その宮廷において  
 フォースタスは皇帝の貴族たちと共に饗応にあずかっております。 15  
 彼がどのような魔術を披露したかは  
 ここでは申し上げません。ここで演じますものをご自身の目で  
 ご覧になって下さい。

[退場]

## 第四幕, 第一場

マルティノ, フレデリック, 別々の入り口から登場

マルティノ           おい、おい、侍従たち、紳士諸君、  
 急いで皇帝陛下にお仕えする準備をしろ。

- フレデリック、部屋を直ちに空けるよう見てきてくれないか、  
陛下が間もなく広間にお出ましになる。
- それから戻って、皇帝のご座所の準備が整っているか見て来てくれ。 5
- フレデリック だが、我々が選んだブルーノー法王はどこにおいでだ、  
精霊の背に乗ってローマから帰られたのではないのか？  
法王閣下も皇帝陛下と同席されるのではなかったか？
- マルティノ その通りだ、法王と一緒にドイツ人の魔術師、  
ウイッテンベルヒの誉れ、魔術に関しては世界の驚異でもある 10  
碩学の士フォースタスも来ることになっている。  
彼は偉大なカロルス陛下に  
陛下の歴代の勇敢なご先祖のお姿をお見せすることになっている、  
そしてアレキサンダー大王の気高く、勇壮なお姿と  
美しい王妃のお姿を、 15  
陛下の御前に呼び出してお見せするということだ。
- フレデリック ベンヴォリオはどこだ？
- マルティノ あいつのことだ、ぐっすり眠りこけているんだらう。  
昨夜はブルーノー様の健康を祝して  
ライン産のワインをがぶ飲みしたからね 20  
今日はぐったりして一日中寝そべっていることだらうよ。
- フレデリック 見てみるよ、あいつの窓が開いたぞ。呼んでみよう。
- マルティノ おおい、ベンヴォリオ！

ベンヴォリオ、二階舞台の窓に、ナイトキャップを被り、  
ボタンをかけながら登場

- ベンヴォリオ 二人共一体どんな悪魔に取り付かれたんだ？
- マルティノ 静かにしゃべれよ、悪魔に聞こえたら大変だぞ。 25  
フォースタスが宮廷に着いたばかりなんだ、  
あの人の後には1000匹もの精霊がついていて  
博士の意のままに何だってやるそうだ。
- ベンヴォリオ 何の話だい？
- マルティノ さあ、早く部屋から出てこいよ、 30  
あの魔術師が法王様と皇帝陛下の御前で

ドイツではまだ見せたこともないような  
珍しい術を披露するのが見られるぜ。

ベンヴォリオ 法王様はまだ魔術に飽きないのかい？  
あのお方が悪魔の背中に乗って来たのはつい最近のことじゃないか、 35  
その魔法使いがそんなにお気に入りなら、  
そいつと一緒にもう一度ローマに戻ってもらいたいもんだ。

フレデリック どうする、この見世物を見に来るのか、来ないのか？

ベンヴォリオ 行かないよ。

マルティノ それじゃあ、その窓辺に立って見物するつもりかい？

ベンヴォリオ そうだな、その間は居眠りしないことにするよ。 40

マルティノ 皇帝は直ぐ近くまでお出でになっている、黒魔術で  
どんな不思議が行われるかご覧になるのだ。

ベンヴォリオ じゃあ、君たちは行って皇帝の側に侍ればばいい。  
俺は今度はこの窓から首を出すだけで満足だ。夜通し飲み明かした  
人間には朝になっても悪魔は手を出さないって言うじゃないか。 45  
それが本当なら、俺は頭の中に悪魔や魔術師を自由に出来る呪いまじなを  
持っていることになるだろう。

[フレデリックとマルティノ退場、  
ベンヴォリオは窓辺に残る]

#### 第四幕、第二場

トランペットの吹奏、ドイツ皇帝カロルス、サクソニー公ブルーノ  
ー、フォースタス、メフィストフィレス、フレデリック、  
マルティノ、従者たち登場

皇帝 人類の驚異、著名な魔術師、  
碩学のフォースタス博士、我が宮廷へようこそ見えられた。  
余とブルーノーの公然の敵の手から  
ブルーノーを救い出してくれたこの度の貴殿の行為は、  
貴殿の力強い降神術によって  
全世界を屈服させるよりも、

- 遙かに貴殿の魔術に輝きを加えることになろう。  
 それ故、貴殿は末永くカロルの寵愛を受けることになろう。  
 そして貴殿が救出してくれたブルーノーが  
 平穩のうちに三重の宝冠をかぶり 10  
 試練に耐えて聖ペテロの椅子に着くことになれば、  
 貴殿の名声は全イタリアに広がり  
 ドイツ皇帝より栄誉を受けることになろう。
- フォースタス カロル陛下、ただ今の身に余るお言葉を頂き、  
 卑小な身ではありますが、このフォースタスは全力を尽くし 15  
 ドイツ皇帝陛下に敬愛と奉仕を捧げ、  
 聖なるブルーノー様の足下に一命を投げ出す所存でございます。  
 その証拠に、陛下の思し召しがありますなら、  
 早速にでも持てる魔術の力を駆使し  
 呪文を称え、永劫の業火の燃え続ける 20  
 地獄の漆黒の門を突き破り、  
 強情な精霊どもを、その洞窟の中から引きずり出し、  
 陛下の思し召しのままに何なりと致させましょう。
- ベンヴォリオ [二階舞台から]畜生め、恐ろしいことを言っているぜ、  
 けど、あいつの言うことなんか俺は信用しないね。だが、見掛け 25  
 だけは魔法使いそっくりだね、法王も行商人そっくりだ。
- 皇帝 では、フォースタス、先頃約束したように、  
 あの名高い征服者、  
 アレキサンダー大王とその妃の  
 ありのままの姿と威風堂々たる姿を見せてくれ給え、 30  
 お二人の並外れた様相を賛嘆したいのだ。
- フォースタス 直ちにご覧に入れましょう、  
 メフィストフィレス、行け、  
 厳かにトランペットを吹奏し  
 陛下の御前に、 35  
 アレキサンダー大王とその美しいお妃を連れて来い。
- メフィストフィレス 承知した、フォースタス。

[退場]

ベンヴォリオ さあて、博士先生、あんたの悪魔たちがさっさと出て来ないと、俺は居眠りをすることになるぜ。畜生、まるで阿呆じゃないか、ずうっと口をぽかんと開けて立ちっぱなしで悪魔の親方を見ていてだけで、結局は何も見られないっていうんじゃない。怒り心頭  
40  
で死にたくもならあな。

フォースタス 君にはすぐに何かを感じさせてやるよ、私の魔術が失敗  
でもしない限り。

陛下、あらかじめ申し上げておかなければなりません  
私の精霊どもが、アレキサンダー大王とその妃の気高いお姿を  
ご覧に供します折には、  
45  
陛下は大王に対し何事もお尋ねになりませんように、  
お声を発せずには彼らを来させ、去らせて下さるようお願い致します。

皇帝 フォースタスの言う通りにしよう、それで満足だ。

ベンヴォリオ そうだ、そうだ、俺様もそれで満足だ。お前さんがアレキサンダー大王とお妃を皇帝の前に連れて来るなら、俺はアク  
50  
ティオンになり、俺様を鹿に変えてみせるよ。

フォースタス それなら私はダイアナになってお前に角を付けてやろう。

トランペットの吹奏。一方の入り口からアレキサンダー皇帝、他方の入り口からダリウス登場。両者格闘。ダリウスが投げ倒される。アレキサンダーはダリウスを殺して王冠を奪う、その場を去ろうとする時、ダリウスの妃に会う。アレキサンダーは妃を抱擁し、王冠を妃の頭上に置く。両者は戻って来て、ドイツ皇帝に礼をする。皇帝は玉座を離れて、二人を抱擁しようとする。これを見たフォースタスは急ぎ皇帝を制止する。  
トランペットの吹奏が止み、音楽が奏でられる。

陛下、恐れながら約束をお忘れになっておられます。

この者たちは影に過ぎず、実体のあるものではございません。

皇帝 許してくれ、この名高き大王の姿を目の当たりにして、  
55  
心を奪われてしまい、  
この腕に抱き締めたくなってしまう。  
だが、フォースタス、このものたちに話し掛けることが

出来ぬのであれば、余の憧れの心を満たすために、言わせて欲しい、  
 かつて耳にしたことだが、この美しい女性が  
 まだこの世に生きておられた時、  
 首筋に小さなほくろか痣があったとのこと、  
 その話が真実か否かを確かめるにはどうすればよいのか？

フォースタス 陛下がご自身で近付いてお確かめ下さい。

皇帝 フォースタス、確かに見えたぞ、  
 この見世物によって、貴殿は余にもう一つ王国を手に入れるよりも  
 素晴らしい喜びを与えてくれた。

フォースタス もうよいぞ、消えてしまえ！

[見世物一行退場]

ご覧下さい、陛下、何とも珍妙な獣があちらの窓から  
 頭を出しております。

皇帝 おお、実に不思議な姿だ！ 見よ、サクソニー公、  
 若いベンヴォリオの頭に大きな角が二本  
 妙な具合に生えているぞ。

サクソニー 何ということでしょう、眠っているのでしょうか、  
 死んでいるのでしょうか？

フォースタス 眠っております、閣下、しかし角のことは夢にも  
 知りません。 75

皇帝 見事な見世物だ。呼んで目を覚ましてやろう。

おい、ベンヴォリオ！

ベンヴォリオ うるさいなあ！ もう少し眠らせておいてくれ。

皇帝 止むを得まい、そんな頭にされるくらいだから、余程よく  
 眠っていたのであろう。 80

サクソニー 目を開けてよく見ろ、ベンヴォリオ、陛下が呼びに  
 なっておられるのだぞ。

ベンヴォリオ 皇帝だって？ どこに？ 畜生、なんだ、この頭は！

皇帝 どうもしない、お前の角が窓に引っ掛かっているのだ、  
 頭は大丈夫だ、角で十分に武装されているからな。

フォースタス おい、おい、騎士殿！ 何だ、角が生えているのか？ 85

ひどい有り様だ。さあ、さあ、みっともないから頭を引っ込めなさい。さもないと、世間様をびっくりさせることになるから。

ベンヴェオリオ 畜生、博士、これはお前の仕業だな？

フォースタス そんなことは言わない方がいい。この博士には技もなく、術もなく、学識もなく、ここにおられる諸卿や 90  
皇帝陛下の御前に、強大な君主、勇猛果敢なアレキサンダー大王を呼び出し、ご覧に供することなど出来ないことだ。  
もしフォースタスにそんなことが出来たら、君は直ちに大胆不敵なアクティオンになり、更に鹿に姿を変えるのでは  
なかったかな。

そういう訳ですから、陛下、お許しが頂ければ、 95  
私が猟犬の群れを呼び出し、この者を追わせます。  
この者がいかに全速力で走ろうとも、逃れることは出来ません、  
血に飢えた犬どもの牙から五体をまもることも出来ないでしょう。  
おおい、バリモウト、アーギロン、アステロウト！

ベンヴェオリオ 待ってくれ、待ってくれ！ 畜生、博士の奴、直ぐにも  
悪魔の大群を呼び出すつもりだ、 100

陛下、お願いします、私のために頼んで下さい。とんでもない、  
そんな責め苦には耐えられませんよ。

皇帝 そういうわけだ、博士、  
余に免じてこの者の角を取ってやっつけてはくれないか。  
罰は十分に受けたであらうから。 105

フォースタス 陛下、このことは私が受けた侮辱の仕返しというよりは、  
陛下にお喜び頂きたいがために、この口の過ぎた騎士を懲らしめた  
に過ぎません。それだけのことでございますから、喜んでこの者の  
角を取り除きましょう。メフィストフィレス、元の姿に戻してやれ。

[メフィストフィレス、角を取り除く]

さて、君、これからは学者には敬意を払うようにし給え。 110

ベンヴェオリオ [傍白] お前たちに敬意を払えっていうのかい？ 馬鹿  
馬鹿しい、学者なんて者はこんな風に正直者の頭に角を生やしたり  
して間男作りをするような奴らなら、奇麗に髭を剃り、小さな鬘襟を  
着けた連中なんか信用するもんか。これに仕返しをしなけりゃあ、  
口を開けた牡砺になって、塩水ばかり飲んでいる方がました。 115

[二階舞台のベンヴォリオ退場]

皇帝           さて、フォースタス、余が生きている限り、  
貴殿のこの素晴らしい功績に対する褒賞として、  
貴殿にはドイツ国内において自由に行動し、  
かつ、強大なカロルス寵愛の下に暮らしてもらおう。

[全員退場]

## 第四幕、第三場

ベンヴォリオ、マルティノ、フレデリック、及び兵士たち登場

マルティノ       なあ、ベンヴォリオ、俺たちの言うことを聞いて  
あの魔術師をやっつけようなんて考えは捨ててくれ。

ベンヴォリオ     行ってくれ！ そんな説得をするなんて君たちは俺を  
愛しちゃいないんだ。

こんなに傷つけられて黙ってられるか？

碌でもない連中が俺が赤恥をかかされたのを嘲り、 5

田舎者丸出しにはしゃぎ回って得意げに言っているんだ、

「ベンヴォリオの頭は今日角で飾られたんだ」って。

おお、このまぶたが二度と閉じられることがないように

この剣であの魔術師を刺し殺すまでは。

この計画に君たちが力を貸してくれる気があるなら、 10

剣を抜いて覚悟をしてくれ。

その気がないなら、行ってしまえ。ベンヴォリオはここで死ぬ。

フォースタスを殺し、必ず俺の不名誉をそそぐ。

フレデリック     いや、どんなことが起ころうとも、俺たちは君と一緒に  
ここに留まり、

博士がこの道をやって来たら殺してやる。 15

ベンヴォリオ     それじゃあ、フレデリック、あの森へ行き、

俺たちの従者や仲間たちを手配し

樹々の陰に潜ませてくれ。

そろそろ、あの魔術師の奴が来るはずだ。

あいつが跪いて皇帝の手に口づけをし、 20

山程褒美をもらって退出するのを見たんだから。

さあ、兵士たち、勇敢に戦ってくれ。フォースタスを殺したら、  
お前たちには財宝をやるぞ、俺たちには勝利があればいい。

フレデリック さあ、兵士たち。俺について森へ来てくれ。

奴を殺した者には黄金と無限の恩顧を与えるぞ。 25

[フレデリック、兵士たちと共に退場]

ベンヴォリオ 角がついていた時より頭は軽くなったが、  
心の方は頭よりずっと重い

あの魔術師の奴が死ぬの見るまでは疼いているんだ。

マルティノ 俺たちはどこに陣取ろうか、ベンヴォリオ？

ベンヴォリオ ここに待ち伏せて、最初の攻撃をかけよう。 30

ああ、あのいまましい地獄の犬めがここにいたら、  
屈辱を晴らすのを必ずみせてやるのだが。

フレデリック登場

フレデリック 隠れろ、隠れろ、魔術師が近くまで来たぞ

ガウンを着て、一人で歩いて来る。

用意はいいか、あの百姓野郎を叩きのめすんだ。 35

ベンヴォリオ その名誉は俺のものだ。さあ、剣よ、深く突き刺せ。

俺の頭に角をくれたお返しに、今すぐ奴の首を落としてやる。

フォースタス、膺の首をつけて登場

マルティノ 見ろ、見ろ、奴がきたぞ。

ベンヴォリオ 問答無用、この一撃でけりがつく。

魂は地獄へ、屍はここに転がる。 [フォースタスを刺す]

フォースタス [倒れながら] おお！ 40

フレデリック 呻いているのか、博士先生？

- ベンヴォリオ 叫け、心臓が破れるほど叫け! フレデリック、見ろ、  
こうしてこいつの苦しみを直ぐに終わらせてやらあ。
- マルティノ 思いっきりやっつけてしまえ。首が落ちたぞ。  
[ベンヴォリオ、フォースタスの膺の首を打ち落とす]
- ベンヴォリオ 悪魔の首だ。復讐の女神が笑っていることだろう。 45
- フレデリック これがあの恐ろしい顔、眉をしかめるだけで、  
地獄の精霊の無気味な王者まで  
抗し難い呪文の力で震えおののかせた、その顔なのか?
- マルティノ これが奴の呪わしい首なのか、こいつの心臓が企んで  
皇帝の御前でベンヴォリオに恥をかかせたのか? 50
- ベンヴォリオ そうだ、その首だ、そしてここに転がっているのが体だ、  
悪事の当然の呪わしい酬いだ。
- フレデリック さて、嫌がられているこいつの名前に恥の上塗りをし  
真っ黒い醜聞だらけにしてやるような方法を考えようじゃないか。
- ベンヴォリオ 先ず、俺の受けた侮辱の仕返しに、奴の頭に、 55  
大きな枝の付いた角を釘で打ち付け  
最初に俺の首枷にした窓からぶら下げてやる、  
世間様に俺が正当な復讐をしたことを見せてやろう。
- マルティノ こいつの顎髭は何に使うてやろうか?
- ベンヴォリオ 煙突掃除屋に売ってやろう。樺の箒の十本分は 60  
長持ちするぜ。
- フレデリック 目玉はどうする?
- ベンヴォリオ くりぬいて、こいつの唇のボタンにしてやろう、  
舌が風邪を引かないように。
- マルティノ そいつは名案だ! ところで、みんな、あちこち 65  
ばらばらにしてしまったが、体の方はどうしよう?  
[フォースタス、起き上がる]
- ベンヴォリオ 畜生、悪魔の奴、生き返ったぞ。
- フレデリック 大変だ、首を返すんだ。
- フォースタス いや、取っておけ。フォースタスには首や手は幾らでも  
生えてくる、  
そうだ、この行為の償いはお前たちの心臓にしてもらおう。 70  
この世における私の命が24年間に限られていることを

お前たち裏切り者は知らなかったのか？  
 お前たちがその剣で私の体を切り裂き、  
 この肉や骨を砂のように粉々に切り刻もうとも、  
 一瞬のうちに私の生気は戻り、  
 傷ひとつない人間として呼吸をしていたことだろう。  
 だが、この私が何故復讐を遅らせているのだ？  
 アステロス、ベリモス、メフィストフィレス！

メフィストフィレス、その他の悪魔たち登場

この裏切り者たちをお前たちの焔の燃えている背中に乗せて  
 天上高く舞い上がり、  
 そこから一番低い地獄の底へ真っ逆さまに落としてやれ。  
 いや、待て。世間の者にこの者たちの惨めな有り様を見せてやろう、  
 地獄がこいつらの裏切りに酬いるのはその後でよからう。  
 さあ、ベリモス、この卑怯者たちを連れて行って、  
 泥沼か汚物の溜まり場へ放り込んでしまえ。  
 お前はこっちの奴だ、森の中を引きずり回してやれ  
 ちくちく刺すいばらや、刺だらけの草むらの中をだ、  
 さて、メフィストフィレス、君には  
 この裏切り者をどこか険しい断崖の上まで運んでもらいたい  
 そこから転がり落ちれば、このならず者の骨はばらばらだ、  
 この男が私の体をばらばらにしようとしたのと同様にだ。  
 さあ、飛んで行け。私の命令を直ちに実行しろ。

フレデリック            お願いだ、フォースタスさん、命だけは助けて下さい。  
 フォースタス            行ってしまえ！  
 フレデリック            悪魔に追い立てられたらいいかなきゃなるまい。

[精霊たち、騎士たち退場]

待ち伏せていた兵士たち登場

第一の兵士            おおい、みんな、用意はいいな。  
 95

大急ぎで騎士の方々を助けにいくんだ。

あの方たちが魔術師と談判しているのを聞いたぞ。

第二の兵士 見ろ、奴がやって来るぞ。やっつけろ、殺してしまえ。

フォースタス なんだ、こいつらは？ 私の命を取ろうという伏兵だな？

では、フォースタス、お前の術を見せてやれ。卑しい下郎ども、

そこを動くな。100

見ろ、この木立が私の命令で動き、

私とお前たちとの間に立ちはだかる砦となり、

お前たちの憎むべき裏切りから私を守るのだ。

しかも、お前たちの弱腰を挫くために、

見ろ、今直ぐに私の兵たちがやって来るぞ。

105

フォースタス、ドアを叩く、悪魔が太鼓を叩きながら登場、

その後から、旗を持った別の悪魔、さらに、武器を持った

悪魔たちと花火を持ったメフィストフィレス登場。

彼らは兵士たちに襲い掛かり、蹴散らす。

[フォースタス、退場]

#### 第四幕、第四場

別々のドアからベンヴォリオ、フレデリック、マルティノ登場、

彼らの頭や顔は血だらけ、泥や汚物で汚れ、三人とも頭には角が

生えている。

マルティノ おおい、ベンヴォリオ、どうした！

ベンヴォリオ ここだ、フレデリック、おおい！

フレデリック おおい、助けてくれ、ベンヴォリオ。

マルティノはどこだ？

マルティノ フレデリック、ここだ、

泥や汚物の沼の中で半分息がつまるところだった、

鬼どもが俺のかかとをつかんで引きずり廻したんだ。

フレデリック マルティノ、見ろよ、ベンヴォリオにまた角が

生えているぞ。



私のこの歳月への支払いを求めている。

それ故、メフィストフィレスよ、

急ぎウイッテンベルヒへ行こう。

5

メフィストフィレス 馬で行きますか、それとも歩いて？

フォースタス この美しく、楽しい緑の地を過ぎるまでは、  
歩いて行こうと思う。

[メフィストフィレス退場]

### 馬商人登場

馬商人 今日是一日中ヒュウステン様っていう方を探し歩いた。 10  
有り難い、そこにいるじゃないか。ご機嫌よう、博士先生。

フォースタス やあ、馬商いの人！ 良い所で会った。

馬商人 旦那、お願いします、この40ドルを受け取って下さい。

フォースタス 君、あんないい馬をそんな安値で買おうなんて無理だよ。

私には売る必要もないのだし、もし、君があと10ドル出しても 15  
買いたいというのなら、連れて行ってもいい、君があ馬をひどく  
気に入っているようだから。

馬商人 お願いします、旦那、これだけを受け取って下さい。わたしは  
とっても貧乏で、おまけに最近馬肉で大損をしちまったんですよ。

この取引でわたしもまた元気が出るんですね。 20

フォースタス そうか、ではこれくらいにしておこう。その金を貰おう。

[馬商人、フォースタスに金を渡す]

ところで、君に言っておかなければならないことがあるのだが、  
あの馬に乗って、生け垣や溝を飛び越えたり、手加減なんかしなく  
ていい。だが、聞いているか？ どんな場合でも馬を水に乗り入れ  
ては駄目だ。

馬商人 なんですって？ 水の中に乗り入れてはいけませんって？ 25  
どうしてです、あの馬は水も飲まないんですか？

フォースタス いや、どんな水だって飲む、だが水の中に入れては  
ならない——生け垣や溝を越えたり、その他どこへ行ってもいいが、  
水の中だけは駄目だ。さあ、行って、馬丁から馬を受けとりなさい、

だが、私の言ったことは忘れないようにな。

30

馬商人 承知しました、旦那。おお、何ていい日だ！ これで俺も、  
これからずっといっばしの男でいられるってもんだ。

[退場]

フォースタス お前は何者だ、フォースタス？ 死を定められた一介の  
人間に過ぎないではないか。

お前の運命の時は終局を迎えようとしている。

絶望がお前の思いに不安を追い込んでいる。

35

静かな眠りの中にこの感情を閉じ込めてしまいたい。

くだらない！ キリストは十字架の上で盗賊に話しかけたではないか、  
ならば、フォースタス、心静かに憩うがよい。 [椅子にかけて眠る]

馬商人、ずぶ濡れで登場

馬商人 ああ、とんでもないいかさま師だ、この博士野郎は！ あの馬  
には何か特別なことが隠されているかと思って、水の中に乗り入れ 40  
てみたんだ。ところが俺が乗っていたのは一本の藁じゃあないか、  
大騒ぎをしてなんとか濡れずにすんだが。ようし、あの野郎を叩き  
起こして俺の40ドルを返してもらおう。おい、博士、このいかさま  
野郎！ 博士先生、目を覚ませ、起きて、俺の金を返してくれ、お  
前の馬は一束の藁になっちゃったんだぞ。博士先生よ！ 45

[フォースタスを起こそうとして足を引っ張ると足が抜ける]

ああ、大変なことをしちゃった！ どうしよう？ 足を引っこ抜い  
てしまった。

[フォースタス、目を覚ます]

フォースタス おお、助けてくれ、助けてくれ！ この悪党に殺される。

馬商人 殺したにしろ、殺さないにしろ、こいつは今じゃあ一本足だ、  
逃げてでも追いつかれっこない、この足はどっかの溝にでも捨てちまおう。

フォースタス そいつを捕まえてくれ、捕まえてくれ、捕まえてくれ！ 50  
はっ、はっ、はっ、フォースタスの足は元どおりになったぞ、  
あの馬商人は40ドルで藁一束を買ったわけだ。

## ワーグナー登場

やあ、ワーグナー君、何か知らせでもあるのか？

ワーグナー アンホルト公爵が是非あなたにお越し願いたいそうです。  
旅に必要な物を持たせて、  
何人かの従者をお遣しになりました。

55

フォースタス アンホルト公爵は立派な方だ、私の術をお見せしなければならぬ方の一人だ。さあ、出掛けよう。

[全員退場]

## 第四幕、第六場

## 道化のロビン、ディック、馬商人と御者登場

御者 さあ、みなさん、ヨーロッパで一番のビールを飲ませる店に案内  
しますぜ。

おおい、女将さん！ ねえさんたちはどこだい？

## 女将登場

女将 いらっしゃい、何を差し上げましょうか？ これは、まあ、  
おなじみの方々、ようこそ。

ロビン おい、ディック、俺が何故黙っているか分かるかい？

ディック いや、ロビン、分からねえよ、何故だい？

5

ロビン 俺はこの店に18ペンス借りがあるんだ。だが黙っていてくれ  
よ、女将が忘れてるかも知れないから。

女将 お顔をしかめて立っていらっしゃるこちらはどなた？ まあ、  
昔のお馴染さんじゃないの？

ロビン やあ、女将、久しぶりだね？ 俺の借りはそのままだろうね。10

女将 ええ、間違いありませんよ、なかなか清算しようとなさらないん  
ですから。

ディック まあ、女将、俺たちのところへもビールを持って来てくれないか。

女将 直ぐにお持ちしますよ。広間の方の準備は出来ているのかい、  
ねえ!

[退場]

ディック さ、みんな、女将が戻って来るまで何をしようか? 15

御者 じゃあ、俺が魔術師にどんな酷い目に合わされたか、話して  
やろう。フォースタス博士ってのを知っているかい?

馬商人 知ってるかだって、あんな奴には災いあれだ。奴を知っている  
訳のある人間が俺様だ。お前さんも奴の魔術にやられたのか?

御者 あいつが俺をどんな目に合わせたか、聞かせてやろう。この間、20  
干し草を一杯積んで、ウイッテンベルヒへ行こうとした時、あいつ  
と出会う、干し草を食えるだけ食ったらいくらだ、と聞きやがっ  
た。それで俺はほんのちょっとあればいいと思って、俺は食いたい  
だけ食いなさい、3ファージングいただきますよ、って言ったんだ。  
そこで奴は金を払って、食い始めたんだ。誓って言うが、奴は荷馬 25  
車一杯の干し草を全部食っちゃったんだ。

全員 おお、恐ろしい! 荷馬車一台分の干し草を食ってしまうとは!

ロビン 成る程ねえ、有り得ることだ、丸太を一台分食ってしまった奴  
の話聞いたことがあるからね。

馬商人 今度はあいつが俺にどんな酷い仕打ちをしたか聞いてもらおう。30  
俺は、昨日あいつのところへ馬を一頭買いに行ったんだ、ところが  
あいつはどうしても40ドルより安く売らないって言うんだ。  
俺は、その馬が生け垣でも溝でも跳び越え、いくら走っても疲れね  
えってことを知っていたから、あいつの言い値を払ったんだ。する  
と博士の奴、この馬を夜昼なく走らせ、休ませなくてもかまわない 35  
が、どんなことがあっても、水の中にだけは乗り入れるな、って言  
うんだ。そこで俺は思ったんだ、この馬には俺には知られたくない  
凄いいことがあるんだ、とね。で、思いっきりよく大きな河へ乗り入  
れてみたんだ、ところが、丁度河の真ん中へ来ると、馬は消えちまっ  
て、俺は葦束に跨っていたってわけだ。 40

全員 大した博士だ!

馬商人 俺がこの件でどんな凄え仕返しをしてやったか聞いてくれ。俺

は奴の家に押し掛けて行くと、奴は眠りこけていた。俺は奴の耳元で怒鳴ったり、叫んだりしたが、さっぱり目を覚まさねえ。そこであいつの足を引っ張ってやった、ぐんぐん引っ張って、とうとう引き抜いちゃった。その足は今でも俺の宿に置いてあるぜ。 45

ロビン それじゃあ、博士は片足かい？ そいつはいい、あいつの悪魔が俺の顔を猿そっくりにしやがったんだから。

御者 女将、もっと、酒だ。

ロビン どうだい、他の部屋でしばらく飲んでから、博士を探しに行かないか。 50

[全員退場]

#### 第四幕、第七場

アンホルト公爵、公爵夫人、フォースタス、メフィストフィレス、  
召し使い、御者登場

公爵 博士、楽しい光景を様々見せてくれてありがとう、空中に聳える幻の城を見せてくれた、その素晴らしい手腕に対し、十分に報いるにはどうすればよいか、思案に余るばかりだ。これ以上に楽しませてくれるものは世界中どこにもあるまい。

フォースタス 閣下、フォースタスがご覧にいれましたものが閣下のお気に召して頂けたのなら、私は十分に報いて頂けたと思っております。ですが奥方様、奥方様にはあのような見世物はお気に召さなかったのではないかと存じます。そこで、よろしければ、最もお気に召すものをお聞かせ頂きたく存じます。この世にあるものでしたら、どのようなものであれ御前にお持ちします。ご懐妊中のご婦人方は珍しく、美味なものをお求めになると伺っておりますが？ 5 10

公爵夫人 おっしゃる通りです、博士殿、大変ご親切なお言葉に甘え、私の心が最も欲しいと思っているものをお聞かせしましょう。今は一月で、冬枯れの季節ですが、もしも夏であったなら、良く熟した一房の葡萄を何よりも所望いたします。 15

フォースタス それならお安い御用です。行け、メフィストフィレス、

急げ!

[メフィストフィレス退場]

奥方様、この他にも何なりとお申し付け下さい、ご満足頂けるよう  
計らいます。

葡萄を持って、メフィストフィレス登場

さあ、どうぞ、お召し上がり下さい。遠い国から運んで参りました  
もので、美味なこと間違いありません。

公爵           これには、今まで以上に驚いた、一年の内のこの季節、すべての 20  
草木が実をつけぬ時期に、貴殿はこの葡萄を一体どこから  
持ってきたのだ。

フォースタス       恐れながら、閣下、地球全体から見ますと、一年の季節  
の変化は二通りに分かれております、それ故、私たちの側が冬であ  
る時には、反対の側では夏となります、インド、サバ、その他の遙   25  
か東の国々では年に二回、果実が実ります。その地から、私が連れ  
ております矢のように速く飛ぶ精霊を使って、ご覧のような葡萄を  
運ばせたのです。

公爵夫人       本当に、これ程美味しい葡萄を頂いたのは初めてです。

道化たち(ロビン、ディック、御者、馬商人)内側からドアを叩く

公爵           門のところで騒ぎ立てているのは何者だ?                   30  
誰か、行って、騒ぎを鎮めて参れ。門を開け、  
何事か、用件を聞いて参れ。

[一召し使い退場]

[道化たち、再び門を叩きフォースタスと話をしたいと喚く]

彼らの許に召し使い登場



場所だ。畜生、さあ、ビールを注ぎな、注がなきゃ、家中の樽をぶっ壊し、ビンでお前たちの脳みそを叩き出すぞ。

60

フォースタス そんなに怒るな。ビールは飲ませてやるから。

閣下、今しばらくご辛抱下さい。

私の名誉にかけて、閣下にご満足頂けるように致します。

公爵 よろしいとも、博士、貴殿の好きなようにするがよい。

召し使いも屋敷も貴殿の自由にするがよい。

65

フォースタス 謹んで御礼申し上げます。では、ビールを持って来てくれ。

馬商人 いいぞ、それでこそ博士だ、その言葉のお返しに、お前さんの木の足の健康を祝して乾杯といこうじゃないか。

フォースタス 私の木の足？ それは一体どういうことだ？

御者 はっ、はっ、はっ、聞いたか、ディック？ 自分の足のことを

忘れてるぜ。70

馬商人 そうだ、そうだ、あのことはあんまり気にしちゃいないみてえだ。

フォースタス その通りだよ、木の足の上では余気にもかかるまいよ。

御者 旦那、あんたの肉や血は随分と脆いんですね！ 馬をお売りになった馬商人のことを覚えていなさるかね？

フォースタス 覚えているよ、馬を一頭売ってやった。

75

御者 それから、その男に馬を水中に乗り入れてはならんと言ったのも覚えているかい？

フォースタス ああ、良く覚えているよ。

御者 それで足のことは全く覚えていないのかい？

フォースタス 全く覚えていない。

80

御者 それじゃ、膝についてお辞儀をすることを覚えといて下さいよ。

フォースタス 有り難いことだ。

御者 大したことじゃありませんよ。ひとつだけ教えて貰えませんか。

フォースタス 何だね？

御者 あんたの二本の足は毎晩一緒に寝ているんでしょうな？

85

フォースタス そんな質問をするなんて、あんたは私をコロッサスみたいにするつもりかね？

御者 そんなつもりはありませんよ。俺は旦那を何にしようなんて思っちゃいませんよ、ただ、そのことが知りたかっただけでして。



## 【注】

## 第三幕プロローグ

line. 10. 最高天 プトレオマイオスの天文学。天体の最も外側に位置し、他の九天球の動きを司る。

## 第三幕第一場

- line. 5. トリエル モーゼル河畔にあるドイツの市。
13. マロ ローマの詩人、ヴェルギリウス (Publius Vergilius More, 70-19BC.)
- 13-15. ナポリ湾とバイア間のトンネル。(中世において魔術師とみなされていた)ヴェルギリウスが魔術をもって一夜にして岩石をくり抜いて造ったと言われる。
- 17-20. ヴェニスサン・マルコ寺院。
- 45-46. サン・ピエトロ寺院の前には、一世紀にローマ皇帝カリグラ (Gaius Caesar, 12-41) がヘリオポリスからローマへ運ばせたオベリスクが立っている。
105. 教会の法令 宗教教義および教会法に関し法王が発布する。
106. トレントの宗教会議は1545年～1563年に互って開かれた。
126. エイドリアン法王 マーローは恐らく神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ一世 (1155-90) と戦い、屈服せしめた、法王ハドリアヌス四世 (1154-1159) を想起していると思われる。法王の宮廷におけるこれらの場面は歴史的には非常に混乱している。
137. 法王アレキサンダー 法王ハドリアヌス四世の後継者である法王アレキサンダー三世 (1159-1181) は神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ一世との抗争を続け、屈服させ、カノッサにおいて法王の覇権を知らしめた。
143. バシリスク 一瞥によって人間を殺すという神秘的怪物
150. ユリアヌス王 ユリアヌスと称させれる法王は三人存在するがそのいずれもシギスマンド皇帝 (1368-1437) と同時代ではない。しかしながら、シギスマンド皇帝は、1414年に、コンスタンス公会議を召集し、教会分立の大抗争の収束を図った。
177. ロラード イギリスの宗教改革者 John Wyclif (1320?-1384) の説を信奉する一派。ローマ・カトリックから迫害を受けた。

## 第三幕第二場

line. 94. 鐘, 聖書, 蝋燭は教会における破門の儀式において伝統的に用いられる。最後に鐘が鳴らされ, 聖書が綴じられ, そして蝋燭の火が消される。

## 第三幕第三場

line. 36. テスター 6ペンス

## 第四幕プロローグ

line. 14. カロルス五世 1519年から1556年まで神聖ローマ皇帝。

## 第四幕第一場

line. 31. 法王様 ブルーノーのこと

## 第四幕第二場

line. 26. 法王 ブルーノー  
 50. アクテイオン ギリシャ神話に出てくる猟師。月の女神ダイアナが沐浴する姿を見たため, ダイアナによって鹿に変えられ, 自分の猟犬に殺された。Ovid: Metamorphoses 参照。  
 54. ダリウス ペルシャ皇帝ダレイオス三世 (336-330B.C.) 紀元前334年, グラニコス河畔においてアレキサンダー大王に大敗を喫した。  
 113. 学者のガウン

## 第四幕第五場

この場の最初の11行はGregがこの芝居を復元した際に省略され, 1604年のquartoにのみ加えられている。疑わしい点も認められるが, 馬商人のエピソードへの転移と, 同時にフォースタスの死という切迫した悲劇を観客に想起させるという観点からこの版においてはこれらの行を取って残した。

line. 10. ヒューステン様 フォースタスの名をもじった諧謔。

## 第四幕第七場

- line. 25. サバ 聖書名はSheba, アラビア南西部の古代王国。
29. ト書き フォースタス, 公爵, 公爵夫人は内舞台上に, 道化たちは外舞台より登場。恐らく彼らは平土間より外舞台に接近するものであろう。召し使いは彼らに呼び掛けるため, 内舞台から外舞台へと移動する。
81. 高貴な人に対し, 左足を引き, 膝を曲げてする会釈。
86. コロッサス 紀元前三世紀頃, エーゲ海のローズ島の港に立っていたと言われる太陽神ヘリオスの巨大な青銅像。両足を開いて港の入り口を跨いでいたと言われている。世界七不思議の一つ。